「広報しながわ」平成２０（２００８）年6月１日号より転載
（イラスト：池原昭治）

品川（しながわ）昔（むかし）ばなし

上大崎

誕生八幡神社の重箱稲荷社

上大崎二丁目にある誕生八幡神社の鳥居（とりい）をくぐって階段を登ると、左側に小さな社殿があります。この社殿は「重箱稲荷（じゅうばこいなり）」と呼ばれています。昔、重箱稲荷はこの近くの六軒茶屋（ろっけんちゃや）町（まち）（現在の上大崎二丁目）にありましたが、明治四十二年に誕生八幡神社へ移されました。「重箱稲荷」とは不思議な名前ですが、その由来には次のようなお話が伝えられています。

三代将軍徳川家光がこのあたりへタカ狩りに訪れた時のことです。

「獲物（えもの）をつかまえるなら今じゃ！」。将軍がそう思ったとき、大空高くタカが放たれました。しかし、どうしたことか、タカは獲物には見向きもせず、はるかかなたに飛んで消えてしまいました。「どこへ行ってしまったのじゃ……？」。将軍も家来の武士たちも、途方にくれてしまいました。タカがいなくなってしまっては、どうにも狩りをすることはできません。

がっかりしていたところ、将軍は道ばたにひっそりと建つ小さな稲荷神社を見てハッとひらめきました。持ってきた重箱のお弁当を稲荷社におそなえしようと考えたのです。

「タカよ、戻ってまいれ……」。将軍がいっしょうけんめいお祈りしていると、不思議なことにタカがどこからともなく戻ってきたのです。とても喜んだ将軍は「狩りを続けるぞ！」と帰ってきたタカを連れ、再び出かけて行きました。

この重箱はそのまま社殿にそなえられ、稲荷社の宝として大切に守られました。このことから「重箱稲荷」という名前で呼ばれるようになりました。

その後、この重箱は重箱稲荷社を管理していた徳蔵寺におさめられましたが、嘉永（かえい）三年（1850）の大火事で徳蔵寺とともに焼けてしまったといわれています。